

リタリンコンサータのAD/HD適用を求める成人AD/HD者の会（佐藤）

注意欠陥・多動性障害（AD/HD）は、発達障害の一種です。数年前『のび太・ジャイアン症候群』、『かたづけられない女たち』といった本がベストセラーになりましたが、これらの本で紹介されたのがこの障害です。

子どもの場合、多動、集中力が続かないなどの症状が出ます。大人になると多動は減りますが、集中力の欠如、スケジュールが守れない、ものごとを先送りにする、整理・掃除や片付けが苦手などの特徴があります。

発達障害は先天性の脳の器質的な障害で、子どもの頃から行動などの面でアンバランスが現れます。

発達障害としては自閉症やアスペルガー症候群が有名ですが、そのほかに注意欠陥・多動性障害（AD/HD）や学習障害（LD）などが該当します。

注意欠陥・多動性障害（AD/HD）は致死性の病気ではないので難病指定が問題になるものではありませんが、治癒しない脳の障害なので、服薬や社会性の訓練、行動訓練をつづけながら、一生治療をつづける必要があります。自閉症に比べ注意欠陥・多動性障害（AD/HD）はあまり注目されない障害でしたが、最近では一定の理解を得て、各都道府県の発達障害者支援センターでも支援が行われています。

発達障害は、医療機関ではおもに小児の患者が注目され、小児精神科が治療を担当してきました。小児の注意欠陥・多動性障害（AD/HD）患児や自閉症患児が増え、学級崩壊などとの関連で、教育現場でも問題になっています。

また成人では、最近では小児のころに診断を受けた患者が成人したり、また大人になってから注意欠陥・多動性障害（AD/HD）であると診断を受ける患者が増えています。

成人の発達障害者はまとまった実態調査がされていないので、正確な患者数などは厚生労働省も精神神経学会も把握していないとのことです。私は千葉県に住んでいますが、千葉県の発達障害者支援センターで、成人の発達障害を診てくださる先生は全国にどのくらいいますかと聞くと、今のところ、把握している範囲で100名程度とのことです。発達障害は専門治療を受けなくてもどうにか生活が維持できる患者さんもいます。

その反面、診断を受ける注意欠陥・多動性障害（AD/HD）など、成人の発達障害者は増えています。専門の医師が全国に100人いても手一杯で、すべての成人患者を診ることが出来ない状況です。

注意欠陥・多動性障害（AD/HD）という障害の薬物治療の第一選択肢としては、まず塩酸メチルフェニデート製剤（リタリン、コンサータ）という薬を使います。この薬は、根治薬ではありませんが、多動・注意欠陥などの症状を抑える薬として、アメリカ、ヨーロッパなど世界中で使われています。そのほかに、心理療法、生活訓練や行動療法などが併用されます。

ところが、覚醒作用のあるリタリンの乱用が昨年の秋に社会問題になりました。その

ため今年の1月1日から成人注意欠陥・多動性障害（AD/HD）の治療に塩酸メチルフェニデートが使用できなくなりました（18歳までの小児には、コンサータという徐放剤が使用できます）。大人の注意欠陥・多動性障害（AD/HD）患者は医者に行っても、注意欠陥・多動性障害（AD/HD）の症状を抑える薬がもらえないのです。

成人注意欠陥・多動性障害（AD/HD）の薬物治療についてどう考えるかについて、先日、厚生労働省の担当者と話をしてきました。ところが、話し合いになりません。厚生労働省の担当者はこの薬の使用について、メーカーが申請すれば考えるが、メーカーから申請が出されていないものについては考えていないの一点張りで、成人の注意欠陥・多動性障害についての使用を認めようとしません。

私たちはこの薬で症状をコントロールして社会生活を送っていました。ところが、それが突然今年から使用できなくなったのです。注意欠陥・多動性障害（AD/HD）患者が塩酸メチルフェニデート製剤を必要としていることについて、国や製薬会社、社会にわかってもらうためには、裁判に持って行かねばならないのでしょうか。その場合、どこを訴えればいいのでしょうか。

わたしたち発達障害者は、教育、福祉、就労支援などの現場の方々の支援も必要としています。日本で日本人向けの治験を実施して、注意欠陥・多動性障害の治療のための薬を一日も早く承認してほしいと思います。

注意欠陥・多動性障害の患者は、仕事で次のような苦手なことがあります。複数のことを同時に処理するのが苦手なため、二つのことを一度に言われるとわからなくなったりするのです。それに対して、「すみません。よくわかりませんでした」と反応すると、「君は何を考えているんだ」ということになります。それを防ぐためにも、私たちは、薬物療法、心理療法、行動療法などの専門治療を受けて行かなくてはいけないのです。

そのためにもまず、障害の認知度を上げ、社会に知ってもらうことが必要です。

また成人注意欠陥・多動性障害（AD/HD）の治療に使用できる塩酸メチルフェニデート製剤などの薬の承認を、一日も早くも求めているのです。